

2025年度事業報告

公益目的事業

1. ウェスレーセンターの貸与（内閣府：Aビル管理事業）

（1）非営利団体へのオフィス賃貸

3つの非営利団体にオフィスを賃貸している。このうち1事業所は2026年6月より賃貸部分の縮小となり、3月より改修工事を行っている。

（2）非営利団体への会議室貸出、ゲストハウス運営

非営利団体向けに、101号室(99㎡)、201号室(38㎡)および204号室(68㎡)を貸会議室として貸出しを行った。貸出時間はいずれも午前9時より午後9時までである。会議室利用の概ね60%相当が非営利団体によるものである。また、4階ゲストルーム2室(402、403)をゲストルームとして運営した。

2. 研修プログラム

2025年度は、国際プログラム2件、国内プログラム6件の計8件の研修プログラムを実施した。従来の研修プログラムに加え、映画上映会および版画展など、文化・芸術を通して社会課題について考えるプログラムを新たに実施した。これにより、従来の参加者層に加え、新たな参加者との接点が広がった。

さらに、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所および瀬戸内国際芸術祭実行委員会による写真展への助成を契機として、「瀬戸内スタディキャンプ2025」を実施するなど、助成事業を通じた新たなプログラム展開にもつながった。加えて、学費助成金授与者による研修プログラムへの参加もみられ、助成事業と研修事業の連携が進みつつある。なお、2025年度の研修プログラム参加者数は理事・職員を除き延べ226名となった。

（1）国際プログラム（内閣府：C国際プロジェクト事業）

①サービスワークキャンプ2025 in カンボジア

Mission Service Work Camp 2025 in Cambodia

実施日：2025 年 8 月 1 日～8 月 8 日

実施場所：プノンペン・カンボジア

参加者：15 名(日本、フィリピン、韓国)、うち日本より 13 名(参加者 10、理事 1、職員 2)
ウェスレー財団が実施する国際協働プロジェクト事業の活動実施国であるカンボジアにおいて、他のアジア諸国の若者と共に労働奉仕活動を実施した。

職業訓練校の建物裏にある敷地の整地作業をフィリピンおよび韓国の若者と共に行い、交流の機会を通して国際相互理解の促進を図った。また、カンボジアの虐殺の歴史の地の訪問や、人身取引問題に取り組む NPO の訪問を通して、カンボジアの歴史や社会課題に関する理解を深める機会を提供した。

さらに、キャンプ終了後の 2025 年 11 月 15 日に日本人参加者を対象としたフォローアップミーティングを実施した(参加者 7 名)。

②アジア女性のためのリーダーシップ研修 2026 in フィリピン

Asian Young Women' s Leadership Development Seminar 2026 in the Philippines

実施期間：2026 年 2 月 4 日～2 月 11 日

実施場所：ケソン市、フィリピン

参加者：40 名(アジア 9 カ国、参加者 30 名、リーダー10 名)、うち日本より 8 名(参加者 5、理事 1、職員 2)

テーマ：Rooted

アジアの若いクリスチャン女性(20 歳～35 歳)を対象にしたリーダーシップセミナーをフィリピンで開催した。各国の女性が直面する社会課題の共有に加え、開催国フィリピンの社会課題である貧困や HIV/AIDS 支援に取り組む NGO の訪問や関係者との対話を通して、現地の課題への理解を深める機会を提供した。また、聖書研究、グループディスカッション、リーダーシップトレーニングを通して、参加者が信仰に根ざしたリーダーシップについて学び、各国のネットワーク形成を促進した。

(2) 国内プログラム(内閣府：B 講演会主催事業)

①学費助成金(日本国内)授与式・交流会

学費助成金授与者としての自覚を促すとともに、交流の機会を通してネットワーク形成に寄与する。

実施日：2025 年 5 月 3 日(土)

参加者：37 名(学生 31、理事 2、職員 1、パートナー団体より 3)

開催地：ウェスレーセンター101(対面及びオンライン)

内容：・2025 年度学費助成金の授与学生に授与証を渡す「授与式」の開催

・2024 年度の助成期間を終えた授与学生から、1 年間の学びの報告

・「難民専門学校教育プログラム(RVEP)」の奨学生(シリア・ウクライナ出身)より各々のこれまでの歩みや専門学校での学びについて話を聞く。

②共に考える社会のかたち Vol.1 イベント Rethinking Society through Dialogue Vol.1 シングルマザードキュメンタリー映画上映会

実施日：2025 年 6 月 7 日(土)

参加者：35 名(参加者 29、映画監督 1、理事 2、職員 3)

ドキュメンタリー映画監督であるライオン・マカヴォイ氏をお招きし、監督が製作した映画「THE ONES LEFT BEHIND: The Plight of Single Mothers in Japan/取り残された人々：シングルマザーの苦境」を上映した。上映後には監督による講演および参加者同士の意見交換を行い、日本におけるシングルマザーの現状について理解を深め、社会課題について考える機会を提供した。

③共に考える社会のかたち Vol.2 イベント Rethinking Society through Dialogue Vol.2 ～教会が関われるシングルファミリーを応援するコミュニティづくり～

実施日：2025 年 8 月 26 日(火)

場所：ウェスレーセンター1 階 101 及びオンライン

参加者：18 名(参加者 13、講師 3、理事 1、職員 2)

6 月 7 日(土)に行われた「共に考える社会のかたち Vol.1」で、シングルマザーに焦点をあてたドキュメンタリー映画の上映と監督によるトークセッションを行ったことをきっかけに、シングルペアレント家庭を支える一般社団法人ハートフルファミリーの西田真弓氏(共同代表)をお招きし、多岐にわたる活動と教会がかかわれる支援の在り方について考える会を持った。事例として、実際に活動をしている 2 教会(日本基督教団東美教会、日本福音ルーテル広島教会)の牧師を招き事例紹介や社会課題を共に考え、実践方法を考える機会を提供した。

④渡辺禎雄版画展 Print Exhibition of Sadao Watanabe

実施日：2025 年 11 月 13 日(木)～15 日(土)

場所：ウェスレーセンター1 階 101

来場者数：75 名(3 日間)、講演会参加者数 42 名(2 日間)

早稲田奉仕園所蔵の渡辺禎雄版画のうち 20 点を展示し 3 日間の展示会を開催した。キリスト教美術専門家・吉松純氏(金城学院大学教授)を講師に迎え、特別講演を 2 日間実施した。国内のクリスチャンアーティストの作品を紹介し、次世代のアーティストへ受け継がれていくことを目的として実施した。

協力団体：公益財団法人早稲田奉仕園

⑤瀬戸内スタディキャンプ 2025 Setouchi Study Camp 2025

実施期間：2025 年 10 月 9 日～10 月 12 日

場所：香川県・高松市、女木島、豊島、大島

参加者：6 名(学生 1、社会人 3、職員 2)

日本国内に住む若者を対象に香川県高松市と瀬戸内海に広がる島々で開催されている「瀬戸内国際芸術祭」を訪れ、多様な表現方法から社会および世界について理解を深めることを目的として実施した。瀬戸内国際芸術祭実行委員会および国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 駐日事務所の協働による写真展に助成を行ったことをきっかけに企画された。アート作品を通して、難民、環境、ハンセン病、人権、地域コミュニティについて学ぶことを目的とし、難民、ハンセン病、環境問題などの社会課題について学ぶプログラムを実施した。

⑥プログラム報告会 Program Debriefing Session

実施日：2026 年 3 月 14 日(土)

場所：ウェスレーセンター1 階 101

参加者：24 名(参加者 18、理事 3、職員 3)

2025 年度実施の「ミッションサービスワークキャンプカンボジア 2025」、「瀬戸内スタディキャンプ 2025」、「若い女性のためのリーダーシップ研修 2026 in フィリピン」の参加者と社会福祉法バット博士記念ホームでインターンシップ・プログラムに参加した参加者の報告会を開催した。

3. 助成金事業

(1) 公益活動助成金(内閣府：D 被災者支援事業)

①2025 年度活動助成金(国内事業)(交付総額：13,592,135 円)

国際相互理解の促進、青少年の育成、女性のエンパワメント、社会的弱者への支援等を目的として国内で活動している諸団体の事業を対象に募集を実施。計 43 団体から申請があった。

2024 年 12 月 4 日に実施した選考委員会で審査した結果、26 団体への交付が決定。その後、1 団体が助成金を辞退したため、最終的に 25 団体に交付。交付先の詳細は「添付-1」を参照。

②2025 年度活動助成金（アジア・太平洋地域事業）（交付総額：3,113,631 円）

貧困や教育、保健衛生、社会的弱者の福祉向上などの分野で、アジア・太平洋地域ですでに 2 年以上実施されている事業を対象に募集を実施。計 8 団体から申請があった。2024 年 12 月 4 日に実施した選考委員会で審査した結果、4 団体への交付が決定。交付先の詳細は「添付-2」を参照。

③特別活動助成金

自然災害等に伴い、被災地ニーズに沿って緊急的に必要とされる救援活動ならびに人道支援活動を助成する。2025 年度は申請がなかった。

（2）教育助成金（内閣府：D 被災者支援事業）

日本及びアジア・太平洋地域の青少年の教育のために学費を助成し、また経済的支援が必要なプログラム参加者の参加費を助成する。これらの助成を通して、一人一人に与えられている賜物を用いて、国際社会の様々な分野とレベルで貢献していくことのできるリーダーシップを育成していく。

①2025 年度学費助成金（日本国内）Mission Fellow 枠（交付総額：1,300,000 円）

社会福祉・教育・医療等の分野で専門の資格を取得し、卒業後にキリスト教精神を基盤とした組織への就職を志すクリスチャンの大学生・大学院生・認可専門学校生で、所属校から推薦を得た学生を対象に募集を実施。3 名から申請があった。2025 年 3 月 14 日に実施した選考委員会で書類選考およびオンライン面接を実施した結果、計 2 校、2 名への助成金交付が決定。交付先の詳細は「添付-3」を参照。

②2025 年度学費助成金（日本国内）一般枠（交付総額：14,981,860 円）

経済的・社会的支援を必要とする日本国内の大学生、短大生、認可専門学校生で、社会貢献への意志があり、所属校から推薦を得た学生を対象に募集を実施。計 33 名から申請があった。2025 年 3 月 10 日、3 月 11 日、3 月 14 日に実施した選考委員会で書類選考およびオンライン面接を実施した結果、計 21 校、25 名への助成金交付が決定。交付先の詳細は「添付-3」を参照。

③2025 年度学費助成金（アジア・太平洋地域）（交付総額：38,700 米ドル）

経済的・社会的支援を必要とするアジア・太平洋地域の大学生で、ウェスレー財団のミッションパートナーである United Board for Christian Higher Education in Asia とネットワークのある学校に所属し、所属校から推薦を得た学生を対象に募集を実施。計 45 名から申請があった。選考委員会で審査した結果、インド、インドネシア、東ティモール、フィリピンに所在する計 19 校、35 名への助成金交付が決定。交付先の詳細は「添付-4」を参照。

④研修参加費助成金（交付総額：98,285 円）

財団が主催するプログラム参加者を対象に、参加費の一部を助成。2025 年度は、瀬戸内スタディキャンプ 2025 の参加者 1 名と若い女性のためのリーダーシップ研修 2026in フィリピンの参加者 1 名(2 名とも学費助成金の授与者)の参加費を助成。

（3）人材育成（内閣府：G 国際プロジェクト事業）

①インターンシッププログラム

派遣先：社会福祉法人バット博士記念ホーム

派遣者数：大学生 1 名

日本に在住する 20～30 歳までの若者で、社会課題解決に関心があり、キリスト教精神を基盤とした NGO・NPO 団体、社会福祉施設、特別支援学校等でのインターンを希望する方を対象に随時募集を実施。インターン派遣先とインターン生の仲介及びインターン生のフォローアップをし、インターン実施に必要な経費を助成。新たに 2 名申請者がおり、うち 1 名は 2026 年夏にアジア学院に派遣予定。

②短期人材派遣

国内外で活動する諸団体で必要とされている専門職人材(教師、ソーシャルワーカー、医療従事者、エンジニアなど)の短期派遣事業を対象に随時募集を実施したが、申請はなかった。

4. 国際協働プロジェクト（内閣府：G 国際プロジェクト事業）

①カンボジア Hope Vocational School

Hope Vocational School は、経済格差のために必要な教育を受けられない若者に、継続的な自立のためのスキルトレーニングを行う学校で、2025 年 1 月に開校した。ウェスレー財団、Bridge of Hope、GBGM(合同メソジスト教会宣教局)との協働で、この学校の働きを支援して

いる。現在、英語、韓国語、バリスタのクラスがあり 2025 年度は 159 名が学んだ。英語クラスの卒業生が、新年度より教師として教えることになった。2025 年 8 月に Hope Vocational School の裏庭整備のためにサービスワークキャンプを実施した。その際に、Ms. Delecia Carey 校長より、コミュニティーの人々に認識され、入学希望者が増えている報告があった。

②ラオス Community for Health and Agriculture Development CHAD

Savannakhet と Salavan 地区の 27 教会にて、調査、リーダー研修が行われた。道路状況が非常に悪くアクセスに困難があるが、2025 年度に行われたプロジェクトは以下のとおりである。

井戸：21 か所

トイレ：6 か所(4 教会、1 学校、1 コミュニティー)

③カンボジア 「女性と少女たちをジェンダーに基づく暴力から守るプロジェクト」

ウェスレー財団、UNFPA Cambodia、カンボジア女性省の協働で 2024 年に SafeApp を開発した。その後、修正・調整期間を経て、2025 年度には 5699 件の登録があった。8 月に行われたウェスレー財団サービスワークキャンプの際に、参加者が UNFPA カンボジアオフィスを訪ね、カンボジアでのジェンダーに基づく暴力の現状とアプリの施行状況を聞く機会を得た。

④教育ドキュメンタリープログラム 「取り残された人々第 2 編：若者の自殺」

ジャパンメディアサービス株式会社、ライオン・マカヴォイ監督との協働で、日本の若者の自殺問題のドキュメンタリー(日英)を制作した。夏までに編集作業を終えて、その後、試写会・広報と教育・啓蒙活動を行っていく。

⑤「難民専門学校教育プログラム」(内閣府：D 被災者支援事業)

Refugees Vocational Education Program

UNHCR と公益財団法人 JELA(Japan Evangelical Lutheran Association)との共同で、日本に滞在する難民の専門学校学費の援助をする。2025 年度には、8 名の学生(シリア 3、ミャンマー 2、ウクライナ 3、2024 年度から継続者 3 名を含む)に助成した。

2026 年度生の面接選考が 2025 年 8 月 19 日(火)に行われ、4 名(アフガニスタン 3、ミャンマー 1)の申請者に助成が決定した。

⑥「キリスト教主義学校 青年の意識調査」

8 月に調査実行委員会が立ち上がり、月 1 回のミーティングを行い、協力学校への依頼とア

ンケートを作成した。アンケートについては、何度かの修正を経て、2026 年 4 月から実施予定。

⑦日本における宣教師の働きの歴史編集

日本における宣教師の働きの歴史を学ぶために、「キリスト教歴史―築地居住地ツアー」(6 月 9 日、日本聖書協会主催)、「外国人居留地―医療と福音」講演会(11 月 1 日、日本聖書協会・聖路加病院共催)に出席した。また、1 月には United Methodist Archives and History Center を訪ね資料を確認した。

⑧UMC Legacy Meetings

- ・ アジアにある UMC Legacy 団体としてウェスレー財団、Scranton Women's Leadership Center, Asia/Pacific Office of GBGM は、アジアでのミッション活動やプログラムについて年 2 回定期的にミーティングを行っている。10 月 27 日-28 日、3 月 30-31 日韓国にて開催した。
- ・ Centennial Celebration of Korea UMC Foundations(5 月 30 日)にソウルにて行われ、小海代表理事が出席した。
- ・ Scranton Women's Leadership Center in Korea, Asia/Pacific Office of GBGM, United Women in Faith の共催で Asia Christian Women's Leadership Seminar がマニラで行われた。ウェスレー財団のプログラム Asian Young Women's Leadership Development Seminar との連携のために、小海代表理事が陪席した。

5. 財務規律関連等事項

■公益目的事業会計収支

(単位：円)

経常収益	200,257,686
経常費用	210,732,904
当期経常増減額	△10,475,218
収益事業利益繰入額	30,888,740 円
繰入後当期剰余額	20,413,522 円

■公益目的事業費比率

法人全体の費用に占める比率は 76.8%で適正(50%以上)である。

■使途不特定財産

基準(過去5年度の公益目的事業費用の平均額相当)の範囲内である。

■公益充実資金

ウェスレーセンターの再建築費用として積み立てている。当年度の建物減価償却費相当額の 93%を公益目的事業に係わる分として算定、23,675,872円を公益充実資金に繰り入れる。

収益事業

財団所有の下記物件賃貸を継続して行った。

- ①土地：港区南青山 6-10-11(ウェスレーセンター所在地)の賃貸
- ②ウェスレーセンター事務所：株式会社への賃貸
- ③ウェスレーセンター会議室：3つの会議室の非営利利用以外の貸し出し
- ④ウェスレーセンターゲストハウス：7室のうち4室を住居として賃貸
- ⑤ウェスレーセンター駐車場：6区画の賃貸

施設管理

- ・ 2025 年度は特段の改修工事、修繕等は実施していない。
- ・ 空調設備の耐用年数到達により、更新工事の見積、マンション側との調整を開始した。
- ・ 管理会社三菱地所コミュニティ社によるウェスレーへの電量料金過少請求が発覚した。
2010年のビル建設当初から2025年7月期までにおける過少請求であり、直近5年間の料金の半額を支払うこととした。

1. 法人の状況に関する重要事項

■役員等

評議員 Kim HeaSun、大江浩、Roland Fernandes、荒川朋子、野田沢

理 事 (代表理事)小海光、(業務執行理事)大都保幸、西川嗣夫

(理事)吉松純、Paul Kong、大久保絹

監 事 吉田博

※西川嗣夫(2025年6月11日付、業務執行理事、重任)

■外部監査等

外部会計監査として監査法人薄衣佐吉事務所、税務顧問として石橋税務会計事務所と契約をしている。

■職員

在職者数 6名(2026年3月末)

■会議

(理事会)

第1回定例理事会 2025年5月26日開催

第2回定例理事会 2026年3月4日開催

(評議員会)

定例評議員会 2025年6月11日開催

(投資委員会ミーティング)

毎月1回開催

(業務執行理事ミーティング)

毎月1回開催

(事務局スタッフミーティング)

毎月1回開催

(会計ミーティング)

石橋税務会計事務所による月次会計報告等、毎月1回

■受取寄附金

国際プロジェクト事業のため 5300 万円の寄附金を受領

教育関連団体支援金のため 2,348,174 円の寄附金を受領

■海外への送金

(おもな送金内容)

学費助成金(アジア・太平洋地域)及び国際協働プロジェクト(民生向上事業)事業費

(送金先)

インド、インドネシア、フィリピン、東ティモール、カンボジア、ラオス

(リスク低減対策)

海外送金先口座情報の専用フォーマットを作成し届出を必須としている。また、受領報告のメールと、領収書(または Credit Memo 等の証明書)を添付で提出してもらっている。

2. 体制整備に関する決定内容及び運用状況

■定款・規程の制定及び変更

- ・業務執行理事を定款にて位置付ける変更を 2025 年度第 2 回定例理事会にて承認、2026 年度定例評議員会に上程予定。
- ・役員及び評議員の報酬ならびに費用に関する規程の一部変更

■監査

- ・2024 年度末時点で負債合計が 50 億未満となり、外部会計監査人設置基準の条件から外れたが、運営の透明性を維持するため、外部監査を継続することとした。
- ・期中及び期末に監事との意見交換を行った。
- ・監事監査：2024 年度事業及び決算に関する監査 2025 年 5 月 19 日
2025 年度期中監査：2025 年 12 月 3 日
- ・監査法人監査：実査 2025 年 4 月 1 日
2024 年度決算監査 2025 年 4 月 30 日、5 月 12 日、5 月 19 日
2025 年度期中監査 2025 年 12 月 18 日、2026 年 2 月 12 日、3 月 31 日

■リスク管理

- ・ウェスレーセンタービル避難訓練を 2026 年 1 月 29 日に実施した

3. 運営体制充実のための取組

■理事・評議員等

- ・外部理事には、次世代育成活動に知見を有する大学教員、法務・コンプライアンス等に関する専門家として弁護士を選任している。
- ・外部理事には、当法人の活動を直接視察する機会の提供を行っている。監事には、会計を中心とした業務報告を毎月おこなっている。
- ・評議員の選任は、外部委員を含めた評議員選考委員会を設置し行っている。

■事務局

- ・毎月会計事務所による証憑及び帳簿等のチェックと財務諸表の作成、会計士・税理士とのミーティングを通じて、健全な財務管理体制を維持している。
- ・職員の専門性向上のため、研修受講を積極的に行った。
総務関係：2名・2研修 会計：1名・3研修、プログラム：2名・4研修
- ・育児介護休業規程を整備し、柔軟な働き方を実現するための措置を講じて、職員の子育と仕事の両立負担軽減をはかった。
- ・IT・DX推進では会議室予約管理の自動化、経費精算のペーパーレス化等を進めた。
- ・Web サイト、SNS 等による事業活動実施報告の迅速化を進めた。

事業報告書付属明細書は、記載する重要事項がないので作成していない。
